

静岡県立大学 1 年生の TOEIC についての意識調査

寺尾 康・近藤隆子・吉村紀子

1. TOEIC とは

TOEIC(トピック:Test of English for International Communication)とは日本経団連と通産省(当時)の要請を受けて、ETS(Education Testing Service:アメリカの非営利試験開発機関)によって開発された聞き取り 100 問と読解 100 問からなる英語テストである。得点は 10 点から 990 点まで 5 点きざみで相対評価される。この一定した採点スケールと、現在では受験者数 150 万人¹を数えるまでになった圧倒的な母集団の規模から、TOEIC は「世界共通語としての英語」の国際コミュニケーション能力を測るうえで最も信頼性の高いテストの一つという評価を得ている。TOEIC を採用している国内の企業・団体・学校は 2600²にのぼり、企業においては採用・昇進の要件や社員教育のため、学校(多くは大学)においては英語科目のクラス編成や習熟度チェック、さらには進級や卒業要件に用いられている。受験者数、採用団体数とも第一回のテストが行われた 1979 年以降、ほぼ順調な伸びをみせており、ますますグローバル化する社会の共通語として広く認められている英語の地位を考えると、これから大学生活、社会人生活を送っていく学生たちにとって、TOEIC との「付き合い」は好むと好まざるとに拘わらず、長く、深いものになっていくであろうことが予想される。

本報告は、その付き合いの、いわばスタートラインに立っている本学 1 年生が TOEIC に対してどのような意識を持っているのか、その一端を知るために行ったアンケート調査の結果をまとめたものである。結果とその評価は、基礎資料として 2007 年度から設置された言語コミュニケーション研究センターの活動と本学英語教育の将来像に示唆を与えてくれるものと期待される。

1 TOEIC Newsletter 98 号による。

2 同じく TOEIC Newsletter 98 号による。

2. TOEIC についての意識調査

調査は2006年11月から12月にかけて、著者らが準備した質問紙を各学部の英語の授業時間の一部を借りて配布し、その場で記入を依頼するという方法で実施した。調査対象は本学1年生で、参加者数は512名、学部別の内訳は表1の通りであった。

表1 調査参加者の所属学部

国際関係学部	176人
薬学部	121人
食品栄養学部	60人
経営情報学部	103人
看護学部	52人
合計	512人

まず TOEIC についての簡単な説明と本学における TOEIC 教育の基礎資料とすべく意見を伺いたい旨の前文を置き、成績や教育方法の変更に直接結びつくものではないことを断ったうえで、8項目からなる7題の質問への回答を依頼した。制限時間は特に設けなかったが、ほとんどの参加者が10分以内に回答を終了していた。質問は、(1)と(2)で TOEIC の受験経験の有無、経験がある場合その回数と最高得点を問うという基礎的な部分の確認を行った。(3)から(5)では「仮に本学が一部の大学が行っているように一定の TOEIC の得点を卒業要件として課すとしたら」という前提のもとに質問を行った。(3)はそうした制度に対する感想を5段階評価するもの、(4)は「一定の得点」とは何点くらいがよいかというもの、(5)では(3)において「TOEIC の得点を卒業要件として課す」ことに対して反対と回答した学生に、制度に反対する理由を自由に記入してもらった。(6)と(7)では TOEIC 特別クラスについての現状と希望について選択肢を用いて尋ねた。次節ではその結果を質問ごとにみていくことにする。

3. 結果

Q1: これまでに TOEIC を受験したことがありますか? (全学部)

まず、大学入学からほぼ半年間でどれほどの学生が TOEIC を受験したのか、から調べていこう。結果は表2に示す通りとなった。いわゆる理系と文系という区分があるが、それが正確でないとしたら取得すべき免許・資格が明確で、将来就く職業がみえやすい学部（薬学部、食品栄養学部、看護学部）とそうとは言いにくい学部（国際関係学部、経営情報学部）とに二分すると、問題がつかみやすくなるように思われる。

研究ノート・資料

前者の学部には所属する学生達にとって入学して半年間、TOEIC 受験は頭に登らなかったのではないと思われるほど数字が低いのは、授業科目の特性を考えれば、ある程度仕方のないことかもしれない。今後は、1年生のうちから英語とそのスキルアップの重要性について伝えていく努力が必要となろう。

表2 TOEIC 受験経験の有無 (全学部)

学部	国際関係学部		薬学部		食品栄養学部		経営情報学部		看護学部		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
ある	55	31.25	8	6.61	3	5.00	84	81.55	1	1.92	151	29.49
ない	118	67.05	113	93.39	57	95.00	19	18.45	48	92.31	355	69.34
無回答	3	1.70	0	0	0	0	0	0	3	5.77	6	1.17
合計	176	100	121	100	60	100	103	100	52	100	512	100

後者のタイプの学部、国際関係学部と経営情報学部では、受験経験者数に大きな差がみられる。特に国際関係学部生で3分の1近くしか受験していないというのは、まだまだ意識が低いと言わざるを得ない。学科の専門性からして英語(言語)に興味のある学生が集まっていると予想されること、さらに課外特別授業である TOEIC 対策講座には4割以上の学生が出席している(質問6を参照のこと)を考え合わせると、TOEIC の学習から初回の受験へと「最初の一步」を踏み出させる努力が必要であろう³。経営情報学部では、入学時、また一年次終了時に TOEIC IP (Institutional Program) を受けているため、回答者がこの“IP 受験”を“TOEIC 公開テスト受験”と勘違いして回答した可能性を排除できないので注意しなければならないが、一年生の中に必ず一度は TOEIC を受験するようという指導が行われており、受験者数においてはその成果が現れているとみることができる。

Q2: ((Q1)で「ある」と答えた人のみ) そのうち最高取得点は何点ですか?(全学部)

では、受験経験のある本学1年生達は、どれほどの得点を持っているのだろうか。結果は表3の通りとなった。表中、括弧内に示されている数字はそれぞれの学部における最高点と最低点である。

受験者数がそれほど多くないので、明確な基準の設定が難しいうえに、「大学1年

3 特に1年生に対しては大学からの積極的な働きかけが必要かもしれない。明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部などは1年生に対し年6回の受験を義務づけている。

生レベルにおける合格点」といったものが設定されているわけでもない。ただ一応の目安として、TOEICを大学教育の評価基準に取り入れているいくつかの大学の情報⁴から大学1年生レベルでの基準点を500点とすると、国際関係学部でそれよりも高い得点(学内89%)に、経営情報学部では低い得点(同85%)に偏った分布が現れている。ちなみにそれぞれの学部の平均点は623点、393点であった。国際関係学部では、この段階でTOEICを受験している学生はそれだけ学習意欲も、コミュニケーション英語能力も高いということかもしれない。

表3 受験経験のある学生の得点分布 (N=100)

点数	国際関係学部	薬学部	食品栄養学部	経営情報学部	看護学部	合計
200-249				1 (210)		1
250-299				7		7
300-349				12		12
350-399	1 (385)			13		14
400-449	1			10		11
450-499	2	1 (450)		7		9
500-549	4			6		10
550-599	9			1		10
600-649	9			2 (637)		11
650-699	5	1				6
700-749	2					2
750-799	2					2
800-849	1					1
850-899	1	1 (850)				2
900-949	1 (945)					1
合計	38	3	0	59	0	100

4 明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部、群馬県立女子大学、埼玉大学の設定目標点数を参考にした。TOEIC Newsletter 97号から。

Q3:TOEICの得点を卒業条件に加えている大学もあります。本学で仮に「一定のTOEIC得点を卒業条件として課す」ことにした場合、そのことについてどう思いますか。(全学部)

TOEIC Newsletter 89号によると、大学の英語教育においてTOEICが使用され始めたのは1990年代半ばだという。そして1999年に文部省(当時)がTOEICの得点を英語科目に読み替えることを認めてからはその勢いが加速し、現在では進級や卒業の要件にTOEICの得点を用いる大学が出てきている。たとえば、先述した明海大学ホスピタリティ・ツーリズム学部では、1年次から2年次へ、2年次から3年次への進級要件としてそれぞれTOEIC500点、600点を課している。要件とまではいなくても、卒業までに到達すべき英語力の目標としてTOEICの得点を具体的にあげることは多くの大学で行われており、本学においても国際関係学部の2007年度からの中期目標に、案の段階ではあるが「卒業までに60%の学生がTOEIC600点以上」という項目が書かれようとしている。したがって、この質問項目は、将来本学がTOEICの得点を卒業要件に加えるとしたらという仮定のもとで、学生達に賛成か反対かを尋ねたものである。結果は表4に示す通りとなった。

表4 TOEIC得点を卒業要件に加えることへの反応

学部	国際関係学部		薬学部		食品栄養学部		経営情報学部		看護学部		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
賛成	66	37.50	21	17.36	15	25.00	22	21.36	1	1.79	129	25.20
反対	49	27.84	51	42.15	22	36.67	47	45.63	48	85.71	183	35.74
どちらとも言えない	61	34.66	49	40.50	23	38.33	33	32.04	3	5.36	196	38.28
無回答	0	0	0	0	0	0	1	0.97	4	7.14	4	0.78
合計	176	100	121	100	60	100	103	100	56	100	512	100

(賛成は「どちらか」というと賛成)、反対は「どちらか」というと反対をそれぞれ含む。)

賛成が反対を上回ったのは国際関係学部のみであった。英語の成績が良い学生ほど賛成する傾向にあるのかもしれないが、学部の特性上将来の進路がある程度ははっきりしていて、その職業にさほど英語が必要ではないと考える学生が多い学部で反対が多いのはある程度予想できるものである。反対理由の詳細については付録1の表を参照されたい。

Q 4: ((Q3)で「1 賛成である」「2 どちらかという賛成」と答えた人のみ) 卒業条件に設定する TOEIC 得点は何点くらいがよいと思いますか (全学部)

質問(3)に賛成と答えた学生は、その基準をどのあたりと考えているのだろうか。この点は興味深い。というのは、ほとんどの場合、こうした要件に関するボーダー得点の設定は大学側が一方的に行う⁵ので、学生側が自ら頭に描くハードルの高さが伝わってくるものがほとんどないからである。学生側の「基準設定」は表5のようになった。

表5 卒業要件として学生が設定した得点

点数	国際関係学部	薬学部	食品栄養学部	経営情報学部	看護学部	合計
250-299				1		1
300-349			1			1
350-399						
400-449		2		2		4
450-499				1		1
500-549	1	5	5	3		14
550-599	2	2		3	1	8
600-649	13	6	5	8	1	33
650-699	12	1	1	4		18
700-749	18	1	3	2		24
750-799	6	1	2		1	10
800-849	6	1			1	8
850-899				1		1
900-949	3					3
合計	61	19	17	25	4	126

傾向としては、現在の持ち点の高い学生がそれに応じたハードルを設定しているようである。国際関係学部で最も頻度が高かった700-749点というゾーンはTOEIC側が中級とみなしている境目(730点)と一致しているのは興味深い⁶。もう一つ、年

5 その結果、少なからず失敗もしている。代表的な事例として、設定基準が厳し過ぎて進級困難者が続出したと伝えられる横浜市立大学の例があげられる (<http://www.tokyo-np.co.jp/00/sya/20061108/eve>)。

6 文部科学省も英語教員の最低レベルとしてこの点を設定している。

研究ノート・資料

度頭初に実施される学内プレイスメントテストでは国際関係学部生とそれほど違わない成績をあげている薬学部生の多くがかなり低いハードルを設定している点も考慮すべき傾向として指摘しておきたい。

Q 5: これまで学部で開講されている「TOEIC 対策特別講座」を受講したことがありますか (国際関係学部のみ)

国際関係学部では、2001年からTOEIC対策の特別講座を開いていて、着実な成果をあげている(井上・佐藤・吉村2002)。回答者のうち、受講経験のある学生は76人(43%)であった。春期の募集は毎年五月に始まるが、新入生のうちからきめ細かな周知活動をして受講生数を増やしていく必要がある。

Q 6: 「TOEIC 対策講座」があった方がよいと思いますか。(国際関係学部以外)

Q 7: 「TOEIC 対策講座」が開講されたら、受講したいと思いますか。(国際関係学部以外)

国際関係学部以外の学生はTOEIC対策講座をどう思っているのか、を尋ねた二つの質問への回答を並べてみると、表6、7にみられるように、看護学部をのぞいて、「開設されたら受講する」という学生が多数を占めていることがわかる。

表6 「TOEIC 対策講座があった方がよいと思いますか」への反応

学部	薬学部		食品栄養学部		経営情報学部		看護学部		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
よい	41	33.88	36	60.00	63	61.17	10	19.23	208	60.82
どちらでもよい	66	54.55	22	36.67	29	28.16	29	55.77	121	35.38
そう思わない	14	11.57	2	3	9	8.74	9	17.31	7	2.05
無回答	0	0	0	0	2	1.94	4	7.69	6	1.75
合計	121	100	60	100	103	100	52	100	342	100

表7 「TOEIC 対策講座」が開講されたら、受講したいと思いますか」への反応

学部	薬学部		食品栄養学部		経営情報学部		看護学部		合計	
	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	人数	%
はい	68	56.20	45	75.00	81	78.64	14	26.92	208	61.90
いいえ	52	42.98	15	25.00	20	19.42	34	65.38	121	36.01
無回答	1	0.83	0	0	2	1.94	4	7.69	7	2.08
合計	121	100	60	100	103	100	52	100	336	100

ただ、看護学部においても、患者の多国籍化、医療の国際化の時代を迎えて、基礎的な英語コミュニケーション能力への必要性は将来さらに高まると予想されるので、今後「はい」の答えが逆転していく余地は残されているように思われる。

4. 今後の学内英語教育に向けて

今回の調査結果は、所属する学部の違いに由来すると思われる、学生間の TOEIC への意識の違いを顕著に映し出しているようにみえる。もちろん、大学の英語教育イコール TOEIC の点数を上げることではないが、まず学生達の基礎的な英語コミュニケーション能力の習得に対してモチベーションを底上げしていくことが急務であろう。同時に、TOEIC の高得点イコール十分な英語能力というわけでは決してないことにも注意をすべきで⁷、高得点をあげた学生達には、その後にくる能力、たとえばプレゼンテーションスキルを含むアカデミック英語能力の習得に向けて方向付けをしていくことも必要となろう(吉村・寺尾・池田 2007、Hawke and Yoshimura 2007)。

最後に、TOEIC を取り入れた大学英語教育成功事例(たとえば群馬県立女子大からは1年間に93点アップという驚異的な成果が報告されている。TOEIC Newsletter 97号)についてふれると、それらに共通することは学生一人一人の顔が見えるきめ細かな指導体制を持っていることである。CALL(Computer Assisted Language Learning) 設置などのハード面の整備には時間が必要であるならば、まず全学部をあげての英語教育に対する理解という、意識の上での協力体制から整備していくことこそが最重要課題といえるかもしれない。

7 TOEIC の認定証には得点の有効期限は2年間だという但し書きがついている。高得点をとったとしても英語力アップのための不断の努力が必要なのは言うまでもない。

謝辞

本アンケート調査を作成する過程で池田周氏にご協力をいただきました。また、調査結果の集計の際には渡邊聡氏からの的確で迅速なご指導・ご協力をいただきました。ここに記して感謝いたします。

引用文献

- Hawke, Philip and Noriko Yoshimura. 2006. From Everyday Conversations to Scholarly Presentations: Developing Learners' Academic Language Proficiency. *Ars Linguistica* 13, 21-41.
- 井上朋子・佐藤真千子・吉村紀子. 2002. 「大学教育における TOEIC 指導—成果と課題—」, 『国際関係・比較文化研究』第1巻第1号. 静岡県立大学国際関係学部. 41-56.
- 吉村紀子・寺尾康・池田周. 2007. 「AFTER TOEIC—“標準装備”の英語力養成を考える」, 『ことばと文化』第10号. 静岡県立大学. 23-40.

資料

- TOEIC Newsletter (2005) January, 89号.
- TOEIC Newsletter (2006) November, 97号.
- TOEIC Newsletter (2007) April, 98号.

付録1 「一定の TOEIC 得点を卒業条件として課す」ことに賛成できない主な理由

国際関係学部	受験料がかかるから (5人) TOEIC のスコア=英語能力ではないから 自主的に受けるものだと思うから 卒業できなくなる (6人)
薬学部	薬剤師国家試験の勉強があるので負担が大きすぎる (8人) TOEIC または英語が (あまり) 必要でないため (12人) 時間がない (2人) 英語が苦手だから (6人) TOEIC は大事だと思うが、卒業条件にまですべきではないと思う。
食品栄養学部	英語重視の学部ではないから (2人) 技術 (専門) 的なものに力を入れたい (3人) 卒業できなくなるから (5人) 強制にするのはおかしい (8人)
経営情報学部	他の勉強への負担 (3人) TOEIC または英語が必要ないから (9人) 英語が苦手 (卒業できなくなる) (23人) 他大学で点数不足で進級できないなど問題になっているから
看護学部	学部の勉強が大変だから (7人) 英語の学力はあまり関係のない分野だから (7人) 勉強する時間がないので (3人) 英語が苦手なので (4人)